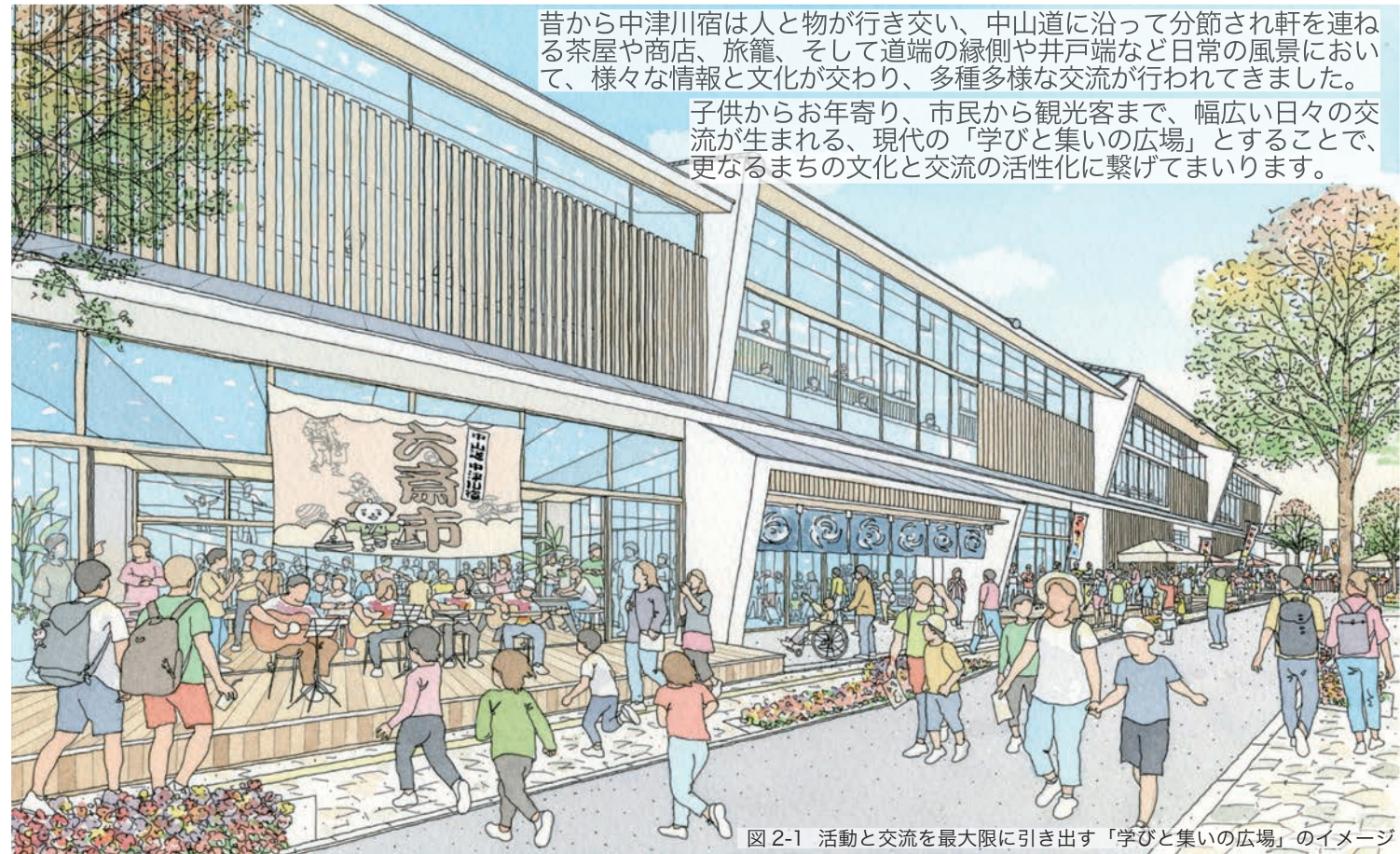


■特定テーマ①「4つの機能と複合施設の特長の活かし方についての提案」

# 4つの機能がシナジー効果を発揮し、活動と交流を最大限に引き出す



昔から中津川宿は人と物が行き交い、中山道に沿って分節され軒を連ねる茶屋や商店、旅籠、そして道端の縁側や井戸端など日常の風景において、様々な情報と文化が交わり、多種多様な交流が行われてきました。子供からお年寄り、市民から観光客まで、幅広い日々の交流が生まれる、現代の「学びと集いの広場」とすることで、更なるまちの文化と交流の活性化に繋がります。

図 2-1 活動と交流を最大限に引き出す「学びと集いの広場」のイメージ

# 「学びと集いの広場」を共に作り出します

## ●空間構成の方針

4つの機能をマッシュアップ！  
様々な活動をボーダレスにつなぐ

## ■アクティビティによる空間の再構成

- 学び / 市民交流 / 観光 / 子育て支援の利用者同士のボーダレスな活動が可能となり、新たな出会いや交流が誘発され、創造的な発展が期待できる融合的な空間構成とします。
- 賑わいから静けさ、開放感から集中空間まで、それぞれの「アクティビティ」に相応しい居場所を整えることで、多様な利用者が刺激し合う関係の中で、新しい発見が生まれる場とします。

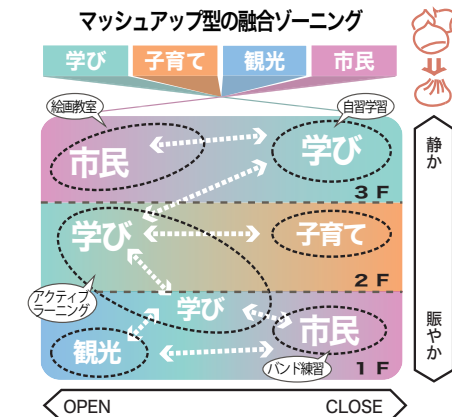


図 2-2 4つの機能によるマッシュアップイメージ図

## ●機能配置の方針

限定利用でなくリバーシブルに！  
持続する複合の相乗効果を最大化

## ■様々な気づきが生み出される空間構成

- 互いに関連・補完し合う4つの機能を混合配置した市民交流プラザは、部門を超えた連携を可能とします。
- 利用者の新たな発見やマルチな創造のきっかけを生むとともに、管理者が協力しやすい環境を整えます。
- 場の使われ方や機能を限定せず、異なる部門間で両使いが可能な備えとすることで、限られた空間を最大活用できる仕掛けとします。

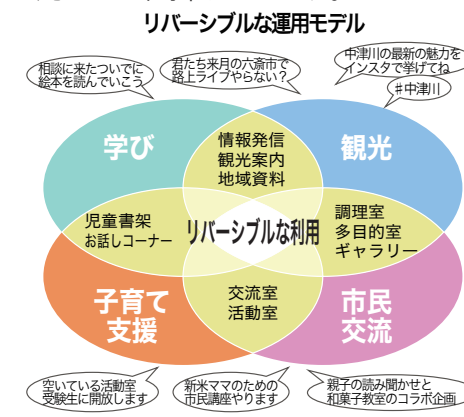


図 2-3 リバーシブルな利用イメージ図

## ●動線計画の方針

「人・もの」と「こと」を自由に！  
自由な利用とセキュリティを両立

## ■エリアで管理する立体的な回遊動線

- 1、2階の風除室にBDS（ブックゲイティングシステム）を配置し、施設内は人と本の自由な移動を可能とします。
- 施設内は、機能による限定的な境界の無い回遊動線でつなぐことで、思いもかけぬ発見と出会いを呼び込みます。
- 開館時間と利用時間の違いに対応したセキュリティ区画や、フロア中央に配置したカウンターにより、明確なエリア運営を可能とします。

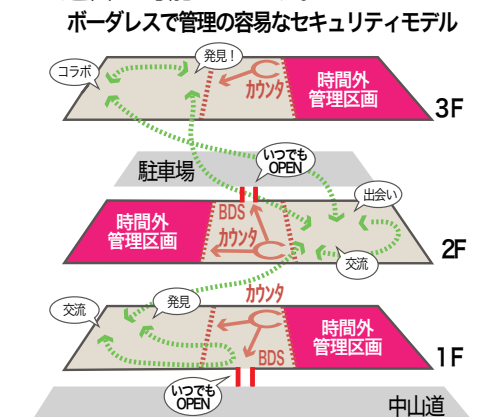


図 2-4 自由な移動と管理の両立イメージ図

## ●配置計画の方針

### ■人と活動をむすび、交流が生まれ活気がにじみ出る場所

- 建物は中山道に面し整形でコバ外な配置とし、駐車場は南東のスペースに計画します。中山道に面した施設全体から賑わいがにじみ出し、活気がまちへ伝わるような配置とします。
- 周囲の低層のまち並みに配慮し、宿町町である中津川らしい、景観に調和した低層階の建物とします。

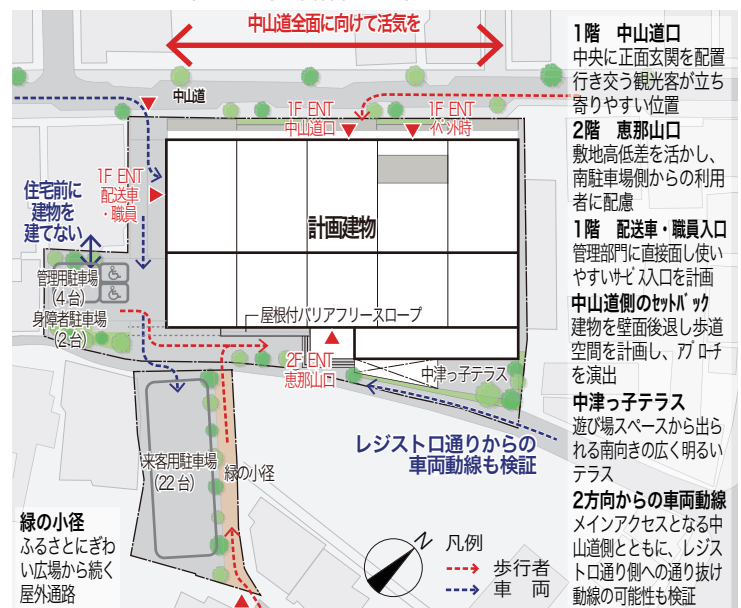


図 2-5 人とまちをつなぐ開かれた配置計画イメージ

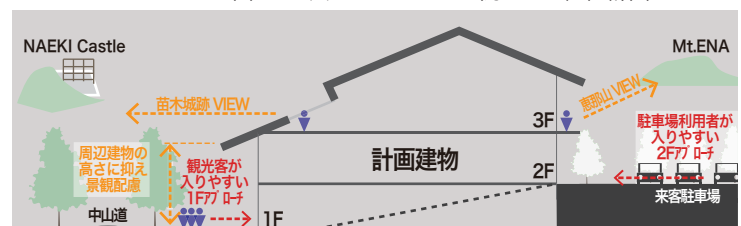


図 2-6 敷地高低差を利用したバリアフリーなアプローチ計画

## ●平面計画の方針

### ■学びのエリアが人の活動をボーダレスにむすぶ平面計画

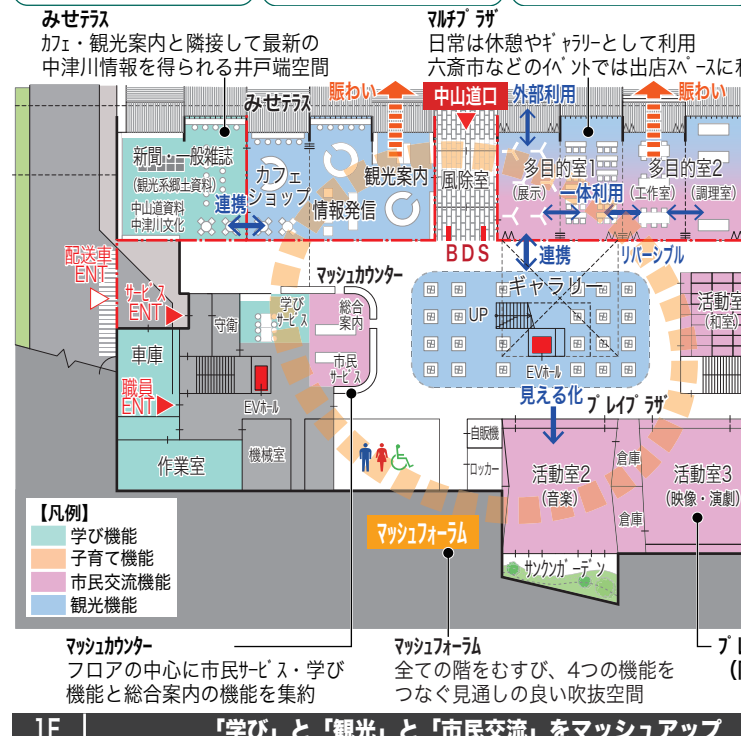
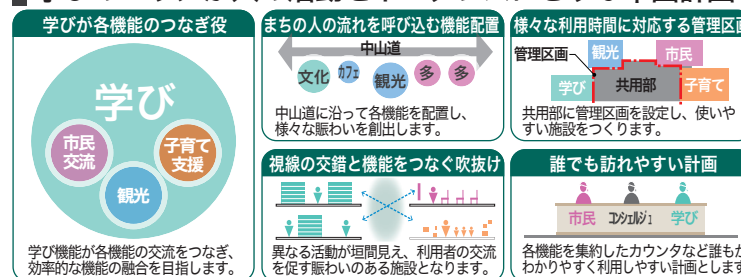


図 2-8 学び機能の内観イメージ



図 2-8 学び機能の内観イメージ

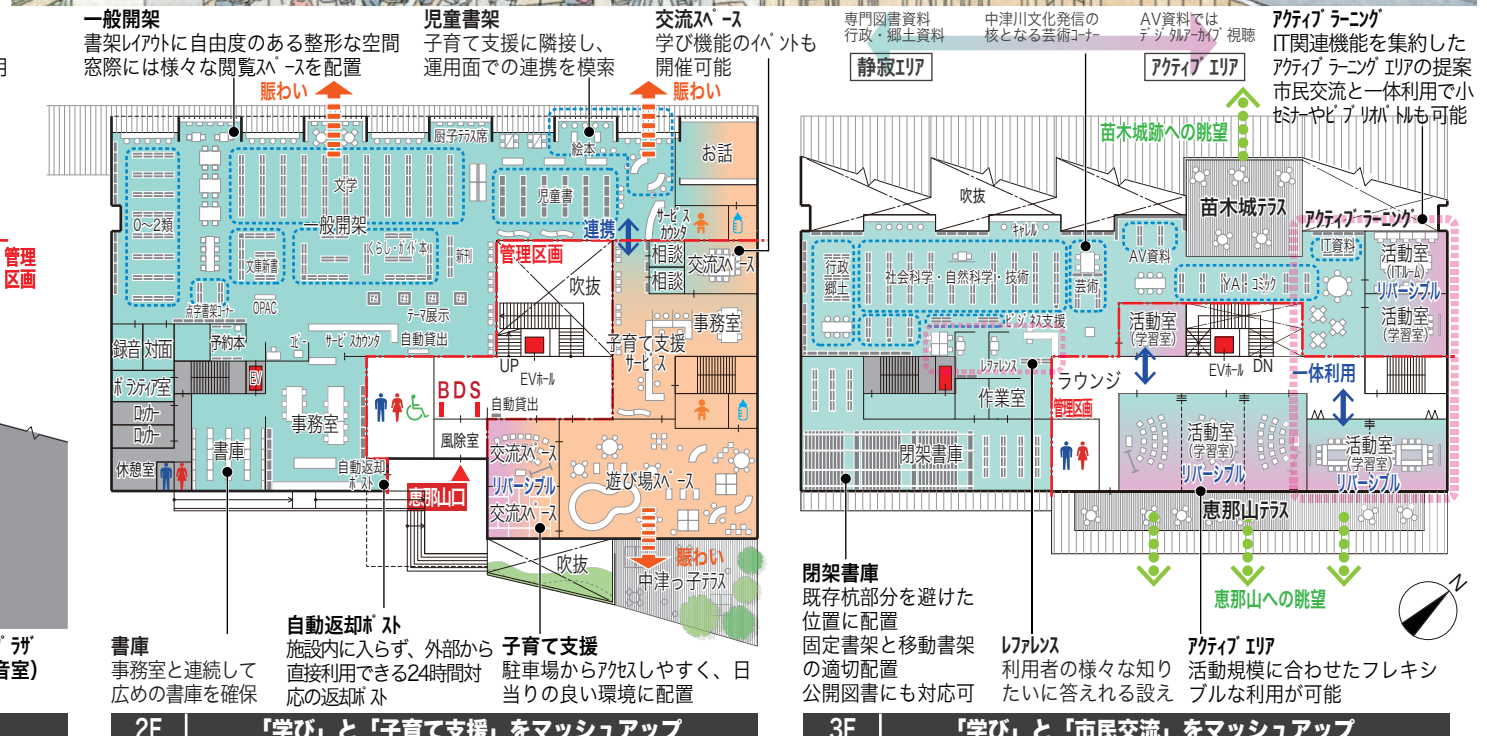


図 2-7 市民交流プラザ平面計画イメージ



■特定テーマ②「中津川市の魅力発信についての提案」

# ここに来れば中津川の「人・情報・活動」の全てがある「元気の源」となる場をつくります

●魅力発信のための5つのポイント

中津川は無尽の考え等、地域や人との関係や交流を大切にしてきた場所です。

「5つのポイント」をしっかり持った施設づくりとすることで、培われてきた中津川市などの魅力に加えて、利用者が発する新しい情報が賑わいの相乗効果を生みだし、元気が発信される場所とします。



①歴史継承と地産地消のポイント

## すべての方に愛され続け、地元中津川が感じられる施設

●厨子二階、うだつ、石畳や恵那錆石、東濃檜など中津川を代表する形態や地場産材を継承活用することは勿論、景観資源の恵那山や苗木城を望むテラスを設け、ふるさとのエッセンスを採り入れることで市民に親しまれる施設とします。



②まちづくりのポイント

## 周辺環境に回遊性を生み、まちをつなげる拠点施設

- 市域の人・文化・産業・環境の様々な情報をネットワークで結び、新しい市民サービスをマッシュアップする拠点として市民交流プラザを位置づけます。
- 中津川の市民交流の創出とまち並継承の2つを軸に、中山道の歴史的まち並みの連続性とレジスト口通りや中心市街地の回遊性をつくり、施設による人々の交流と流動化を図り、景観と心のまちづくりの「結節点」をつくります。

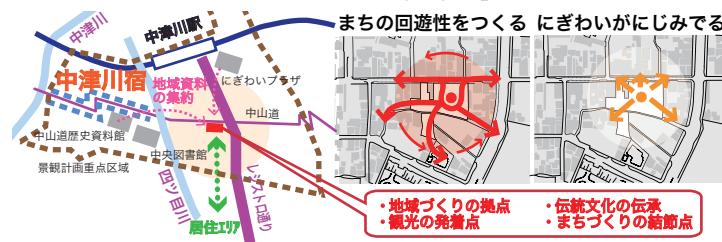


図 3-2 中津川の資源をむすび回遊性をつくるまちづくりイメージ



図 3-1 人々の活動が交流を生むマッシュフォーラムイメージ

③施設づくりのポイント

## 中津川宿の特徴を映す温故知新の「オンリーワン施設」

- 自然と共生してきたまちの歴史的特徴と最新の建築や環境技術を融合し、周辺環境と一体となった、中津川の自然とともにある持続性の高い、地球環境配慮型のオンリーワンのエコ施設とします。
- 市民交流や観光機能を中山道沿いに配置し、活動の様子がまちへにじみ出し、建物内の活気がまちに伝わる計画とします。



図 3-3 温故知新の「オンリーワン施設」イメージ

④市民利用のポイント

## 多世代が一日中滞在でき、学びの意欲に応える施設

- 幼児から高齢者まで快適に利用できるバリアフリー施設とします。子育てしやすく、住みやすいまち中津川を体感し、利用の輪が広がっていくことで魅力発信につながる施設とします。
- 4つの機能がボーダレスにつながる内部空間で、活動する人々の姿が確認でき、触発されることで、交流のきっかけを生み、利用者同士が情報交換できるオープンな施設とします。
- 賑わいと静寂空間が両立した居心地の良い滞在施設とします。

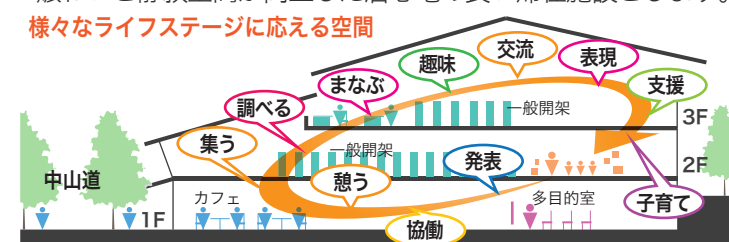


図 3-4 室内をボーダレスにつなぎ活動と交流が生まれるイメージ

⑤観光利用のポイント

## ガイドブックに載る、観光客のプラットフォーム施設

- 観光客対応の独立した管理・運営区画を可能とすることで、時間の制約なくいつでも観光客を受け入れられる運営を可能にし、中津川のプラットフォームとなるおもてなし空間とします。
- 観光客とともにつくる観光マップ等、中津川の観光の魅力を利用者自身が発信する情報など拠点とすることで、市民と観光客とともに中津川の魅力を再発見し、常に新鮮な情報が更新・共有されていく場とします。

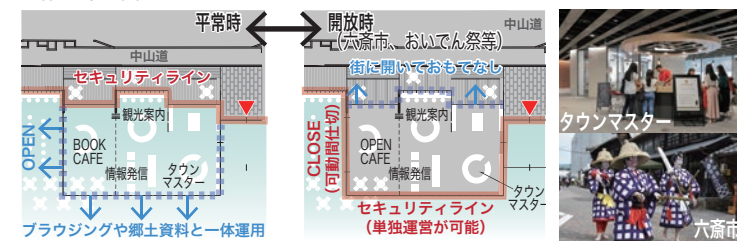


図 3-5 365日使える観光プラットフォームイメージ

■特定テーマ③「埋設杭の有効活用に向けた技術的提案」

# 市の大切な資産を最大限活かし、耐震性、工期、コストバランスの良い長寿命な100年建築を実現します

●既存杭活用の方針

## 既設杭の性能を100%活かす最適な荷重計画

- 建物全体の床荷重配置を調整し、荷重負荷を既設杭の耐力以下に抑えます。既設杭に手を加えず、その特性を活かした上で、増し杭が必要ない経済的で無駄のない構造設計を行います。
- 当初建物南側に配置された既存の重荷重エリアを考慮した上で、新設杭エリアを含めた範囲に機械室や荷重の重いエリアを集約配置します。
- 当初設計の吹抜け空間や増床による荷重負担増に対しては、事務室や廊下など振動懸念のないエリアは軽量化を図った合成デッキ床を採用し、コストも同時に削減します。

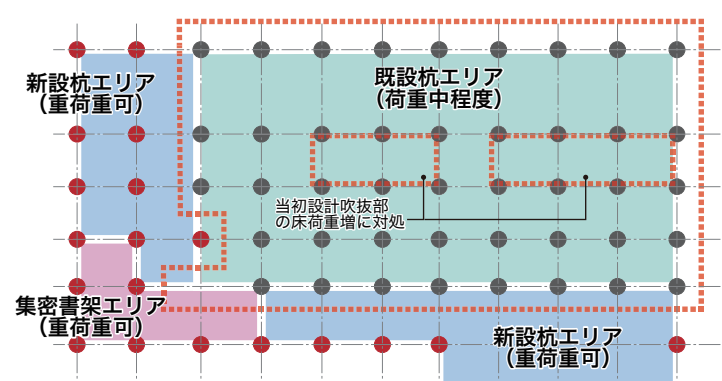


図 3-6 既設杭の特性を考慮した床荷重設定モデル

●架構計画の方針

## 杭への負担を減らす軽量の混構造により一体空間を実現

- 低層階を鉄筋コンクリート（RC）造とすることで、バランスのとれた偏芯の少ない構造とし、地域景観の特徴との調和や造形性も高めます。
- 特に1階基壇部はフロア全体をRC造で固め、杭への水平荷重時の負担を平均化し、既設杭の能力を最大限活かします。
- 2、3階は躯体重量の軽い鉄骨（S）造とすることで、既設杭への荷重負担を軽減しつつ、より開放的な空間構成を確保し、自由なレイアウトや特徴的な屋根架構を実現します。

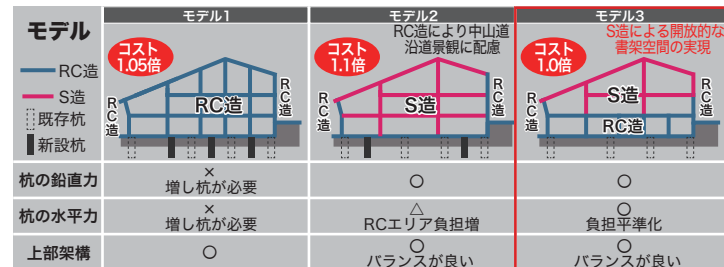


図 3-7 既設杭の特性を考慮した床荷重設定モデル

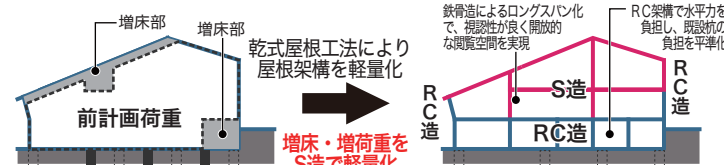


図 3-8 鉄骨造によるロングスパン化

●既設杭スパンを活かしたモジュール設計

## 将来のレイアウト変更が容易なモジュール設計

- 既設杭の5.4mグリッドをそのまま活かし、書架配置に基づいたモジュールに統一し、将来の用途変化や書架レイアウトの変更にも対応しやすい、自由度の高い空間構成とします。
- 書架エリアや活動室は空間利用の自由度が高いS造の大スパンの構造とし、一体的な空間利用や書架レイアウトの変更に対応します。

## 災害に強い安心・安全な高耐震構造とBCP計画

- 既設杭と同じ場所打ちコンクリート杭を採用し、振動特性を統一することで信頼性の高い基礎計画とし、一般的重要度係数1.25を1.3に割増した高耐震構造として安全性を高めます。
- 天井や照明器具などの二次部材の落下や、書架の転倒などの二次災害に対しても安全性を高めた施設計画とします。

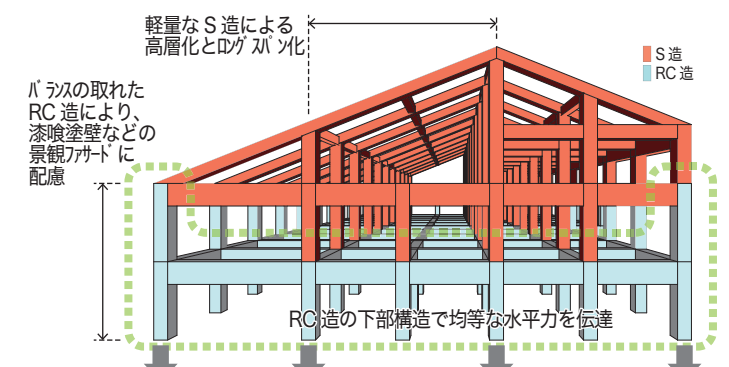


図 3-9 耐震性に配慮した施設計画イメージ

●構造的特徴を生かした施設内外の環境への配慮

## 中津川の自然特性を理解した環境技術と三密対策

- 建物の構成を「スケルトン（構造躯体）」と「インフィル（内装設備）」に明確に分け、インフィルの更新性の配慮で、ライフサイクルコストを22%削減し、長寿命な建築計画とします。
- 地下ピットのRC躯体をクール・ヒートトレンチとして利用する床吹出空調や、高断熱なS造の屋根面の暖気を冬場の暖房として活用する太陽熱集熱パネル等、混構造の利点を生かし、省エネルギーに配慮してランニングコストを抑えた「ZEB」建物をめざします。
- 密室化を防ぐ手法として、風通しの良い窓配置や自然換気システムの導入、全熱交換器での外気取入の他、全館自由で広い閲覧スペース、貸出・返却の自動化など、各種検討を行います。

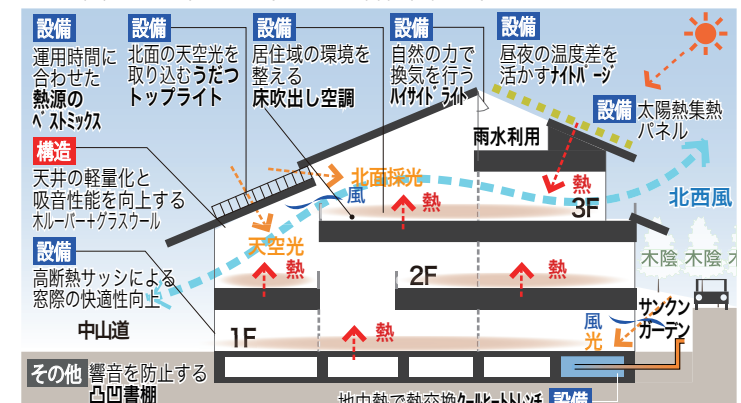


図 3-10 中津川の特性を課題解決に活かした構造・環境技術イメージ